ツ 代上四〇五
子 代上廿四〇卅五
ナ 代上十一〇四十一

ギレアデの父マキルの子等なりき、二四 ヘヅロンカレブエフラタに死て後ヘヅロンの妻アビヤその子アシコル[ツ]を生り、アシコルはテコアの父なり○ 二五 ヘヅロンの長子エラメルの子等は長子はラム次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤ、二六 エラメルはまた他の妻をもてりその名をアタラといふ、彼はオナムの母なり、二七 エラメルの長子ラムの子等はマアツ、ヤミン、エケル、二八 オナムの子等はシヤンマイ、ヤダ、シヤンマイの子等はナダブおよびアビシユル、二九 アビシユルの妻の名はアビハイルといふ彼アバンおよびモリデを生り、三十 ナダブの子等はセレデおよびアツパイム、セレデは子なくして死り、三一 アツパイムの子はイシ、イシの子はセシヤン、セシヤンの子はアヘライ、三二 シヤンマイの兄弟ヤダの子はエテルおよびヨナタン、エテルは子なくして死り[子] 三三 ヨナタンの子等はペレテおよびザザ、エラメルの子孫は斯のごとし、三四 セシヤンは男子なくして唯女子ありしのみなるがセシヤンにヤルハと名くるエジプトの僕ありければ 三五 セシヤンその女をこの僕ヤルハに與へて妻となさしめたり彼ヤルハによりてアツタイを生り 三六 アツタイナタンを生み、ナタンザバデ[ナ]を生み 三七 ザバデエフラルを生みエフラルオベデを生み 三八 オベデエヒウを生み、エヒウアザリヤを生み、三九 アザリヤヘレツを生み、ヘレツエレアサを生み 四十 エレアサシスマイを生みシスマイシヤルムを生み、四一 シヤルムエカミヤを生み、エカミヤエリシヤマを生り 四二 エラメルの兄弟カレブの子等はその長子をメシヤといふ、是はジフの父なり、ジフの子はマレシヤ、マレシヤはヘブロンの父なり 四三 ヘブロンの子等はコラ、タツプア、レケム、シマ、四四 シマはラハムを生り、ラハムはヨルカムの父なり、レケムはシヤンマイを生り、四五 シヤンマイの子はマオン、マオンはベテズルの父なり 四六 カレブの妾エパはハラン、モザおよびガゼズを生り、ハランはガゼズを産り、四七 エダイの子等はレゲム、ヨタム、ゲシヤン、ペレテ、エパ、

ヲ 書十五〇十七
ム 士一〇十六
ウ 耶卅五〇二
イ 母下卅〇二
ロ 書十五〇五十六
ハ 母下三〇五
ニ 母下二〇十一
ホ 母下五〇五
ヘ 母下五〇十四 代上十四〇四
ト 母下十二〇廿四
チ 母下五〇十四 亜十六
リ 母下十三〇一
ヌ 王上十一〇四十三〇十五〇六

シヤフ、四八 カレブの妾マアカはシベルおよびテルハナを生み、四九 またマデマンナの父シヤフおよびマクベナとギベアの父シワを生り、カレブの女子はアクサ[ヲ]といふ 五十 カレブの子孫は左のごとしエフラタの長子ホルの子はキリアテヤリムの父シヨバル 五一 ベテレヘムの父サルマおよびベテガデルの父ハレフ、五二 キリアテヤリムの父シヨバルの子等はハロエにメヌコテ人の半、五三 またキリアテヤリムの宗族はイテリ族、プテ族、シユマ族、ミシラ族、是等よりザレア族およびエシタオル族出たり 五四 サルマの子孫はベテレヘム、ネトパ族、アタロテベテヨアブ、マナハテ族の半およびゾリ族、五五 ならびにヤベヅに住る諸士の宗族すなはちテラテ族、シメアテ族、スカテ族、是等はケニ[ム]人にしてレカブ[ウ]の家の先祖ハマテより出たる者なり

第三章

一 ヘブロンにて生れたるダビデの子等は左のごとし、長子はアムノン[イ]といひてエズレル[ロ]人アヒノアムより生れ、其次はダニエルといひてカルメル人アビガルより生る 二 その三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女マアカの生る子、其四はアドニヤといひてハギテの生る子なり 三 その五はシバテヤといひてアビタルより生れ、其六はイテレアムといひて妻エグラ[ハ]より生る 四 この六人ヘブロンにてかれに生れたり、ダビデ彼處にて王たりし事七年[ニ]と六箇月またエルサレム[ホ]にて王たりし事三十三年、五 エルサレム[ヘ]にて生れたるその子等は左のごとしシメア、シヨバブ、ナタン、ソロモン[ト]、この四人はアンミエルの女バテシユアより生る 六 またイブハル、エリシヤマ、エリペレテ、七 ノガ、ネペグ、ヤピア、八 エリシヤマ、エリアダ、エリペレテの九人 九 是みなダビデの子なり、此外なほまた妾等の生る子等あり、彼らの姉妹にタマル[リ]といふ者あり 十 ソロモン[チ]の子はレハベアム[ヌ]、その子はアビヤ、その子はアサ、その子はミシヤバテ、十一 その子はヨラム、その子はアハジア、その子はヨアシ、十二 その子はアマジヤ、その子はアザリヤ、その子

ル 太一〇十一
ヲ 王下廿四〇十七
ワ 太一〇十二
カ 斯八〇二
イ 創卅八〇廿九、四十六〇十二
ロ 代上二〇五
ハ 代上二〇廿四
ニ 創卅四〇十九

はヨタム、十三 その子はアハズ、その子はヒゼキヤ、その子はマナセ、十四 その子はアモン、その子はヨシア、十五 ヨシアの子等は長子はヨハナン、その次はヱホヤキム、その三はゼデキヤ、その四はシヤルム、十六 ヱホヤキム[ル]の子等はその子はヱコニア[ヲ]、その子はゼデキヤ 十七 俘擄人ヱコニアの子等はその子シヤルテル[ワ]、十八 マルキラム、ペダヤ、セナザル、ヱカミア、ホシヤマ、ネダビヤ、十九 ペダヤの子等はゼルバベルおよびシメイ、ゼルバベルの子等はメシユラムおよびハナニヤ、その姉妹にシロミテといふ者あり 二十 またハシユバ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブヘセデの五人あり 二一 ハナニヤの子等はペラテヤおよびヱサヤ、またレパヤの子等アルナンの子等オバデヤの子等シカニヤの子等あり 二二 シカニヤの子はシマヤ、シマヤの子等はハツト[カ]シ、イガル、バリア、ネアリア、シヤバテの六人、二三 ネアリアの子等はエリヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカムの三人 二四 エリヨエナイの子等はホダヤ、エリアシブ、ペラヤ、アツクブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人

第四章

一 ユダの子等はペレツ[イ]、ヘヅロン、カルミ、ホル、シヨバル、二 シヨバルの子レアヤはヤハテを生み、ヤハテはアホマイおよびラハデを生り、是等はザレア人の宗族なり 三 エタムの父の生る者は左のごとし ヱズレル、イシマおよびイデバシ、その姉妹の名はハゼレルボニといふ 四 ゲドルの父ペヌエル、ホシヤの父エゼル、是等はベテレヘムの父エフラタの長子ホル[ロ]の子等なり 五 テコアの父アシユルは二人の妻を有り即ちヘラとナアラ、六 ナアラはアシユルによりてアホザム、ヘペル[ハ]、テメニおよびアハシタリを産り、是等はナアラの産る子なり、七 ヘラの産る子はゼレテ、ヱゾアル、エテナン、八 ハツコツはアヌブおよびゾベバを生り、ハルムの子アハルヘルの宗族も彼より出づ 九 ヤベヅ[ニ]はその兄弟の中にて最も尊まれたる者なりき、その母我くるしみてこれを産たればとていひてその名をヤベヅ(くるしみ)と名けたり 十 ヤベヅイスラエルの

ホ 書十五〇十七
ヘ 尼十一〇卅五
ト 創卅八〇一、五

神に籲はり我を祝福に祝福て我境を擴め、御手をもて我を助け、我をして災難に罹りてくるしむこと無らしめたまへと言り、神その求むる所を允したまふ○

十一 シユワの兄弟ケルブはメヒルを生り、メヒルはエシトンの父なり、十二 エシトンはベテラパ、パセアおよびイルナハシの父テヒンナを生り、是等はレカの人なり、十三 ケナズの子等はオテニエル[ホ]およびセラヤ、オテニエルの子はハタテ、十四 メオノタイはオフラを生み、セラヤはヨアブを生り、ヨアブはカラシム[ヘ](工匠)谷の人々の父なり、彼處のものは工匠なればかくいふ 十五 エフンネの子カレブの子等はイル、エラおよびナアム、エラの子等およびケナズ 十六 ヱハレレルの子等はジフ、ジパ、テリア、アサレル、十七 エズラの子等はエテル、メレデ、エペル、ヤロン、メレデの妻はミリアム、シヤンマイおよびイシバを産り、イシバはエシテモアの父なり、十八 そのユダヤ人なる妻はゲドルの父ヱレデとシヨコの父ヘベルとザノアの父ヱクテエルを産り、是等はメレデが娶りたるパロの女ビテヤの生る子なり 十九 ナハムの姉妹なるホデヤの妻の生める子等はガルミ人ケイラの父およびマアカ人エシテモアなり、二十 シモンの子等はアムノン、リンナ、ベネハナン、テロン、イシの子等はゾヘテおよびベネゾヘテ○

二一 ユダ[ト]の子シラの子等はレカの父エル、マレシヤの父ラダおよび織布者の家の宗族すなはちアシベアの家の者等 二二 ならびにモアブに主たりしヨキム、コゼバの人々ヨアシおよびサラフ等なり、またヤシユブレハムといふ者ありその記録は古し 二三 是等の者は陶工にしてネタイムおよびゲデラに住み、王の地に居りてその用をなせり○

二四 シメオンの子等はネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シヤウル、二五 シヤウルの子はシヤルム、その子はミブサム、その子はミシマ、二六 ミシマの子はハムエル、その子はザツクル、その子はシメイ、二七 シメイには男子十六人女子六人ありしがその兄弟等には多の子あらざりき、またその宗族の者は凡てユダの子

孫はもとに殖増ざりき 二八 彼らの住る處は[チ]ベエルシバ、モラダ、ハザルシユアル、二九 ビルハ、エゼム、トラデ、三十 ベトエル、ホルマ、チクラグ、三一 ベテマルカボテ、ハザルスシム、ベテビリ、シヤライム、是等の邑はダビデの世にいたるまで彼等の有たりき 三二 その村郷はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五の邑なり 三三 またこの邑々の周圍に衆多の村ありてバアルにまでおよべり、彼らの住處は是のごとくにして彼ら各々系譜あり 三四 メシヨバブ、ヤムレク、アマジヤの子ヨシヤ、三五 ヨエル、アシエルの曾孫セラヤの孫ヨシビアの子エヒウ、三六 エリオエナイ、ヤコバ、エシヨハヤ、アサヤ、アデエル、エシミエル、ベナヤ 三七 およびシピの子、ジザ、シピはアロンの子、アロンはエダヤの子、エダヤはシムリの子、シムリはシマヤの子なり、三八 此に名を擧げたる者等はその宗族の中の長たる者にしてその宗家は大に蔓延り 三九 彼等はその群のために牧場を求めんとてゲドルの西におもむき谷の東の方にいたり 四十 つひに膏腴なる善き牧場を見いだせしがその地は廣く靜穩にして安寧なりき、其は昔より其處に住たりし者はハム人なればなり、四一 即ち上にその名を記したる者等ユダの王ヒゼキヤの代に往て彼らの幕屋を擊やぶり、彼らと其處に居しメウニ人を盡く滅ぼし、之に代りて其處に住て今日にいたる、[リ]是はその群を牧べき牧場其處にありたればなり、四二 またシメオンの子孫の者五百人許イシの子等ペラテア、ネアリア、レパヤ、ウジエルを長としてセイル山に攻ゆき 四三 [ヌ]アマレキ人の逃れて遺れる者を擊ほろぼして今日まで其處に住り

第五章

一 イスラエルの長子[イ]ルベンの子等は左のごとし ルベンは長子なりしが其父の床を涜せしによりて[ハ]その長子の權はイスラエルの子ヨセフの子等に與へらる、然れども系譜は[ロ]長子の權にしたがひて記すべきに非ず 二 そは[ニ]ユダその諸兄弟に勝る者となりて[ホ]君たる者その中より出ればなり、但し長子の權は

チ　書十九〇二
リ　王下十八〇八
ヌ　母上十五〇八、卅〇十七　母下八〇十二
イ　創廿九〇卅二、四十九〇三
ロ　創卅五〇廿二、四十九〇四
ハ　創四十八〇十五、廿二
ニ　創四十九〇八、十　詩六十〇七、百八〇八
ホ　米五〇二　太二〇六

ヨセフに屬す、三 即ちイスラエルの長子ルベンの子等はハノク、パル、ヘツロン、カルミ、四 ヨエルの子はシマヤ、その子はゴグ、その子はシメイ、五[ヘ] その子はミカ、その子はレアヤ、その子はバアル、六 その子はベエラ、このベエラはアッスリヤの王テルガテピルネセルに擄へられてゆけり、彼はルベン人の中に牧伯たる者なりき、七 彼の兄弟等はその宗族に依りその歴代の系譜によれば左のごとし、長エイエルおよびゼカリヤ 八 ベラ等なり、ベラはアザズの子シマの[ト]孫ヨエルの曾孫なりかれアロエルに住みて[チ]地をネボ、バアルメオンにまでおよぼししが 九 ギレアデの地にてその家畜殖増ければまた地を東の方ユフラテ河の此方なる荒野の極端にまでおよぼせり [リ]十 またサウルの時にハガリ人と戰爭をしてこれを打破りギレアデの東の全部なる彼らの幕屋に住たり○ 十一 ガドの子孫はこれと[ヌ]相對ひて[ル]バシヤンの地にすみて地をサルカにまで及ぼせり 十二 長はヨエル次はシヤパム、ヤアナイ、シヤパテ、共にバシヤンに居り、十三 彼らの兄弟等はその宗家によればミカエル、メシユラム、シバ、ヨライ、ヤカン、ジア、ヘベル都合七人 十四 是等はホリの子アビハイルの子等なり、ホリはヤロアの子、ヤロアはギレアデの子、ギレアデはミカエルの子、ミカエルはエシサイの子、エシサイはヤドの子、ヤドはブズの子 十五 アヒはアブデルの子アブデルはグニの子グニはその宗家の長たり 十六 彼らはギレアデとバシヤンとその郷里と[ヲ]シヤロンの諸郊地に住て地をその四方の境におよぼせり 十七 是等はみなユダの[ワ]王ヨタムの世とイスラエルの[カ]王ヤラベアムの世に系譜に載たるなり○ 十八 ルベンの子孫とガド人とマナセの半支派には出て戰ふべき者四萬四千七百六十人あり皆勇士にして能く楯と矛とを執り善く弓を彎きかつ善戰ふ者なり 十九 彼等はハガリ人およびエトル、ネフシ、ノダブ等と戰爭しけるが 二十 [タ]助力をかうむりて攻擊たればハガリ人および之と偕なりし[ヨ]者等みな彼らの手におちいれり、是は彼ら陣中

ヘ　創四十六〇九　出六〇十四　民廿六〇五
ト　代上五〇十七
チ　書十三〇十五、十六　書廿二〇九
ヌ　創廿五〇十二
ル　書十三〇十一、廿四
ヲ　代上廿七〇廿九
ワ　王下十五〇五、卅二
カ　王下十四〇十六、廿八
ヨ　創廿五〇十五　代上一〇卅一
タ　代上五〇廿二

レ 詩廿二〇四、五
ソ 王下十五〇廿九、十七〇六
ツ 王下十七〇七
子 王下十五〇十九
ナ 王下十五〇廿九
ラ 王下十七〇六、十八〇十一
イ 創四十六〇十一 出六〇十六 民廿六〇五十七 代上廿三〇六
ロ 代上六〇廿二
ハ 利十〇一
ニ 撒下八〇十七
ホ 撒下十五〇廿七
ヘ 王上六〇 代下三〇
ト 代下廿六〇十七、十八
チ 喇七〇三

にて神を呼びこれを賴みしによりて神これを聽いれたまひしが故なり 二一 かくて彼らその家畜を奪ひとりしに駱駝五萬、羊二十五萬、驢馬二千あり、人十萬ありき 二二 またころされて倒れたる者衆しその戰爭神に由るがゆゑなり而して彼らはこれが地に代りて住その擄移さるゝ時におよべり○ 二三 マナセの半支派の人々はこの地に住み殖蔓りてつひにバシヤンよりバアルヘルモン、セニルおよびヘルモン山まで地をおよぼせり 二四 その宗家の長は左のごとし即はちエペル、イシ、エリエル、アズリエル、エレミヤ、ホダヤ、ヤデエル、是みなその宗家の長にして名ある大勇士なりき○ 二五 彼等その先祖等の神にむかひて罪を犯し嘗て彼等の前に神の滅ぼしたまひし國の民等の神を慕ひてこれと姦淫したれば 二六 イスラエルの神アッスリヤの王プルの心を振興しまたアッスリヤの王テグラテピレセルの心を振興したまへり彼つひにルベン人とガド人とマナセの半支派とを擄へゆき、これをハウラとハボルとハラとゴザンの河の邊りに移せり、彼等は今日まで其處にあり

第六章

一 レビの子等はゲルション、コハテ、メラリ 二 コハテの子等はアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル 三 アムラムの子等はアロン、モーセ、ミリアム、アロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル 四 エレアザル ピ子ハスを生み、ピ子ハス、アビシユアを生み 五 アビシユアブッキを生み、ブッキウジを生み 六 ウジゼラヒヤを生み、ゼラヒヤメラヨテを生み 七 メラヨテアマリヤを生み、アマリヤアヒトブを生み、 八 アヒトブザドクを生み、ザドクアヒマアズを生み、 九 アヒマアズアザリヤを生み、アザリヤヨハナンを生み、 十 ヨハナンアザリヤを生り、此アザリヤはエルサレムなるソロモンの建たる宮にて祭司の職をなせし者なり 十一 アザリヤアマリヤを生み、アマリヤアヒトブを生み、 十二 アヒトブザドクを生み、ザドクシヤルムを生み、 十三 シヤルムヒルキヤを生み、ヒルキヤアザリヤを生み、 十四 アザリヤセラヤを生み、セラヤヨザダクを生む、 十五 ヨザダクはエホバ子ブカデ子ザルの手をもてユダおよびエルサレムの人を擄へうつしたまひし時に擄へられて往り○ 十六 レビの子等はゲルション、コハテ、およびメラリ、 十七 ゲルションの子等の名は左のごとしリブニおよびシメイ、 十八 コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル、 十九 メラリの子等はマヘリおよびムシ、レビ人の宗族はその宗家によれば是のごとし、 二十 ゲルションの子はリブニ、その子はヤハテ、その子はジンマ、 二一 その子はヨア、その子はイド、その子はゼラ、その子はヤテライ、 二二 コハテの子はアミナダブその子はコラ、その子はアシル、 二三 その子はエルカナ、その子はエビアサフ、その子はアシル、 二四 その子はタハテ、その子はウリエル、その子はウジヤ、その子はシヤウル、 二五 エルカナの子等はアマサイおよびアヒモテ、 二六 エルカナについてはエルカナの子はゾパイ、その子はナハテ、 二七 その子はエリアブ、その子はエロハム、その子はエルカナ、 二八 サムエルの子等は長子はヨエル、次はアビヤ、 二九 メラリの子はマヘリ、その子はリブニ、その子はシメイ、その子はウザ、 三十 その子はシメア、その子はハギヤ、その子はアサヤなり、 三一 契約の櫃を安置せし後ダビデ左の人々を立てエホバの家にて謳歌事を司どらせたり 三二 彼等は集會の幕屋の住所の前にて謳歌事をおこなひ來りしがソロモンエルサレムにエホバの室を建るにおよびてその次序に循ひてその職をつとめたり 三三 立て奉事をなせるものおよびその子等は左のごとし、コハテの子等の中ヘマンは謳歌師長たり、ヘマンはヨエルの子、ヨエルはサムエルの子、 三四 サムエルはエルカナの子、エルカナはエロハムの子、エロハムはエリエルの子、エリエルはトアの子、 三五 トアはツフの子、ツフはエルカナの子、エルカナはマハテの子、マハテはアマサイの子、 三六 アマサイはエルカナの子、エルカ

リ 尼十一〇十一
ヌ 王下廿五〇十八
ル 出六〇十六
ヲ 代上六〇四十二
ワ 代上六〇卅五、卅六
カ 代上六〇卅四
ヨ 代上六〇卅四
タ 代上十六〇一

レ 出六〇廿四
ソ 代上六〇廿一
ツ 利一〇九
子 出卅〇七
ナ 書廿一〇
ラ 書廿一〇十一、十二
ム 書十四〇十三、十五〇十三

ナハヨエルの子、ヨエルはアザリヤの子、アザリヤはゼパニヤの子、三七ゼパニヤはタハテの子、タハテはアシルの子、アシルはエビアサフの子、エビアサフはコラの子、三八コラはイヅハルの子、イヅハルはコハテの子、コハテはレビの子、レビはイスラエルの子なり、三九ヘマンの兄弟アサフはヘマンの右に立り、アサフはベレキヤの子、ベレキヤはシメアの子、四十シメアはミカエルの子、ミカエルはバアセヤの子、バアセヤはマルキヤの子、四一マルキヤはエテニの子、エテニはゼラの子、ゼラはアダヤの子、四二アダヤはエタンの子、エタンはジンマの子、ジンマはシメイの子、四三シメイはヤハテの子、ヤハテはゲルションの子、ゲルションはレビの子なり、四四また彼らの兄弟なるメラリ人等その左に立り、其中のエタンはキシの子なり、キシはアブデの子、アブデはマルクの子、四五マルクはハシヤビヤの子、ハシヤビヤはアマジヤの子、アマジヤはヒルキヤの子、四六ヒルキヤはアムジの子、アムジはバニの子、バニはセメルの子、四七セメルはマヘリの子、マヘリはムシの子、ムシはメラリの子、メラリはレビの子なり、四八彼らの兄弟なるレビ人等は神の室の幕屋の諸の職に任ぜられたり〇四九アロンおよびその子等は燔祭の壇と香壇の上に物を獻ぐることを司どり、また至聖所の諸々の工をなし、且イスラエルのために贖をなすことを司どれり、凡て神の僕モーセの命じたるごとし五十アロンの子孫は左のごとしアロンの子はエレアザル、その子はピ子ハス、その子はアビシユア、五一その子はブツキ、その子はウジ、その子はゼラヒヤ、五二その子はメラヨテ、その子はアマリヤ、その子はアヒトブ、五三その子はザドク、その子はアヒマアズ〇五四アロンの子孫の住處は四方の境の内にあり、その閭里に循ひていへば左のごとし、先コハテ人の宗族が籤によりて得たるところは是なり五五すなはちユダの地の中よりはヘブロンとその周圍の郊地を得たり五六但しその邑の田野と村々とはエフン子の子カレブに歸せり五七

ウ 書廿一〇十三
井 代上六〇六十六
ノ 書廿一〇五
オ 書廿一〇七、卅四
ク 代上六〇六十一
ヤ 書廿一〇廿一
ヘ 書廿一〇廿二至卅五

すなはちアロンの子孫の得たる邑は逃遁邑なるヘブロン、リブナとその郊地、ヤツテルおよびエシテモアとその郊地、五八ホロンとその郊地、デビルとその郊地、五九アシヤンとその郊地、ベテシメシとその郊地あり、六十またベニヤミンの支派の中よりはゲバとその郊地、アレメテとその郊地、アナトテとその郊地を得たり、彼らの邑はその宗族の中に都合十三ありき、六一またコハテの子孫の支派の中此他ある者はかの半支派の中即ちマナセの半支派の中より籤によりて十の邑を得たり、六二またゲルションの子孫の宗族はイツサカルの支派、アセルの支派、ナフタリの支派及びバシヤンあるマナセの支派の中より十三の邑を得たり、六三またメラリの子孫の宗族はルベンの支派、ガドの支派およびゼブルンの支派の中より籤によりて十二の邑を得たり、六四イスラエルの子孫は邑とその郊地とをレビ人に與へたり六五即ちユダの子孫の支派とシメオンの子孫の支派とベニヤミンの子孫の支派の中よりして此に名を擧たる是等の邑を籤によりて之に與へたり、六六コハテの子孫の宗族はまたエフライムの支派の中よりも邑を得てその領地となせり六七即ちその得たる逃遁邑はエフライム山のシケムとその郊地およびゲゼルとその郊地、六八ヨクメアムとその郊地、ベテホロンとその郊地、六九アヤロンとその郊地、ガテリンモンとその郊地なり、七十またマナセの半支派の中よりはア子ルとその郊地、ビレアムとその郊地、是みなコハテの子孫の遺れる宗族に歸せり七一ゲルションの子孫に歸せし者はマナセの半支派の宗族の中よりはバシヤンのゴランとその郊地、アシタロテとその郊地、七二イツサカルの支派の中よりはケデシとその郊地、ダベラテとその郊地、七三ラモテとその郊地ア子ムとその郊地、七四アセルの支派の中よりはミシアルとその郊地、アブドンとその郊地、七五ホコクとその郊地、レホブとその郊地、七六ナフタリの支派の中よりはガリラヤのケデシとその郊地、ハンモンとその郊地、

キリアタイムとその郊地、七七 此外の者すなはちメラリの子孫に歸せし者はゼブルンの支派の中よりはリンモンとその郊地、タボルとその郊地、七八 エリコに對するヨルダンの彼旁すなはちヨルダンの東においてルベンの支派の中よりは曠野のベゼルとその郊地、ヤザとその郊地、七九 ケデモテとその郊地、メパアテとその郊地、八十 ガドの支派の中よりはギレアデのラモテとその郊地、マハナイムとその郊地、八一 ヘシボンとその郊地、ヤゼルとその郊地

第七章

一 イッサカルの子等は[イ]トラ、プワ、ヤシユブ、シムロムの四人、二 トラの子等はウジ、レパヤ、エリエル、ヤマイ、エブサム、サムエル、是皆トラの子にして宗家の長なり、其子孫の大勇士たる者は[ロ]ダビデの世にはその數二萬二千六百人ありき 三 ウジの子はイズラヒヤ、イズラヒヤの子等はミカエル、オバデヤ、ヨエル、イッシヤの五人、是みな長たる者なりき 四 その宗家によればその子孫の中に軍旅の士卒三萬六千人ありき、是は彼等妻子を衆く有たればなり、五 イッサカルの諸の宗族の中なるその兄弟等すなはち名簿に記載たる大勇士は都合八萬七千人〇 六 [ハ]ベニヤミンの子等はベラ、ベケル、エデアエルの三人、七 ベラの子等はエヅボン、ウジ、ウジエル、エレモテ、イリの五人、皆その宗家の長なり、その名簿に記載たる大勇士は二萬二千三十四人、八 ベケルの子等はセミラ、ヨアシ、エリエゼル、エリオエナイ、オムリ、エレモテ、アビヤ、アナトテ、アラメテ、是皆ベケルの子等にして宗家の長なり 九 その子孫の中名簿に記載たる大勇士は二萬二百人なりき 十 またエデアエルの子はビルハン、ビルハンの子等はエウシ、ベニヤミン、エホデ、ケナアナ、ゼタン、タルシシ、アビシヤハル、十一 是皆エデアエルの子にして宗家の長たりき、その子孫の中に能く陣にのぞみて戰ふ大勇士一萬七千二百人ありき 十二 また[ニ]イリの子等はシユパムおよびホパム、またアヘラの

[イ] 創四十六〇十三　民廿六〇廿三

[ロ] 母下廿四〇一二　代上廿七〇一

[ハ] 創四十六〇廿一　民廿六〇卅八　代上八〇一

[ニ] 民廿六〇卅九

子はホシム〇 十三 ナフタリの子等はヤジエル、グニ、エゼル、[ホ]シャルム、是みなビルハの產る子なり〇 十四 マナセの子等はその妻の產る者はアシリエル、その妾なるスリアの女の產る者はギレアデの父マキル、十五 マキルはホパムとシユパムの妹名はマアカといふ者を妻に娶れり、その次の者はゼロペハデといふ、ゼロペハデには女子ありしのみ 十六 マキルの妻マアカ男子を產てその名をペレシとよべり、その弟の名はシヤレシ、シヤレシの子等はウラムおよびラケム、十七 ウラムの子は[ヘ]ベダン、是等はマナセの子マキルの子なるギレアデの子等なり、十八 その妹ハンモレケテはイシホデ、[ト]アビエゼル、マヘラを產り 十九 セミダの子等はアヒアン、シケム、リキ、アニヤム〇 二十 [チ]エフライムの子はシユテラ、その子はベレデ、その子はタハテ、その子はエラダ、その子はタハテ、二一 その子はザバデ、その子はシユテラ、エゼルとエレアデはガテの土人等これを殺せり、其は彼ら下りゆきてこれが家畜を奪はんとしたればなり、二二 その父エフライムこれがために哀むてと日久しかりければその兄弟等きたりてこれを慰さめたり 二三 かくて後エフライムその妻の所にいりけるに孕みて男子を生たればその名をベリア（災難）となづけたり、その家に災難ありたればなり 二四 エフライムの女子セラは上下のベテホロンおよびウゼンセラを建たり 二五 ベリアの子はレパおよびレセフ、その子はテラ、その子はタハン、二六 その子はラダン、その子はアミホデ、その子はエリシヤマ、二七 その子はヌン、その子はヨシユア 二八 エフライムの子孫の產業と住處はベテルとその郷里、また東の方にては[リ]ナアラン、西の方にてはゲゼルとその郷里、またシケムとその郷里およびアワとその郷里、二九 [ヌ]またマナセの子孫の國境に沿てはベテシヤンとその郷里、タアナクとその郷里、[ル]メギドンとその郷里、ドルとその郷里なり、イスラエルの子ヨセフの子孫は是等の處に住り〇 三十 [ヲ]アセルの子等はイムナ、イシワ、エスイ、ベリアおよびその姉妹セラ

[ホ] 創四十六〇廿四

[ヘ] 母上十二〇十一

[ト] 民廿六〇卅

[チ] 民廿六〇卅五

[リ] 書十六〇七

[ヌ] 書十七〇七

[ル] 書十七〇十一

[ヲ] 創四十六〇十七　民廿六〇四十四